

東はりま甲南会報

第 16 号

発行
平成25年4月20日

昨年8月に“森滋郎会長入院！”という情報が飛び込んできました。

東加古川病院にお見舞いに駆けつけると、面会は家族の許可が必要と伺っていたのですが、面会を許されました。とてもお元気なので安心。しかし、「もう会長は辞めさせてくれ。」とされました。

数年前から会長交代を言われていたのですが、「先生が現場で診察が続けられる間はお願いします。」と言い続けていました。96歳、その上入院となると・・・

急遽、先輩2名もご出席のうえ臨時役員会を開催し、森会長は名誉会長職に私が後任の会長に選ばれました。そうそうたる諸先輩方がおられる中、光栄なこととお受けさせていただきました。当会設立以来20年間、会長を務めて頂いた森東加古川病院理事長が人間的にも、社会的地位等何れをみてもご立派過ぎ大きく見劣りする私がどう補うか・・・？大きな課題です。

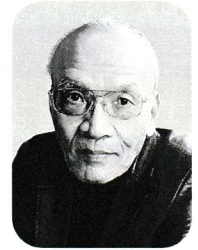
若い役員も育ってきてくれています。彼らに支えて頂ければ何とかなんと、ある面樂觀しています。

もっとこの会の存在PRが必要と考え、早速、名刺を作り配っていたところ「実は私も甲南卒です」、「うちの会社の〇〇サンは確か甲南卒の筈」などと嬉しい情報も有ります。

先ず総会参加者を増やし、初版から16年目になる会報紙面を充実させ、恒例のゴルフの参加者も増やしたい。母校とのパイプも太くしていきます。

参加してよかったと思える会に、仕事にプラスになり楽しい魅力ある同窓会を目指します。

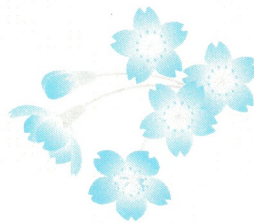
皆様のご協力ご支援、心からお願い申し上げます。



ごあいさつ

東播磨甲南会
(経営学部 昭和41年卒)
会長 三宅 隆宏

有限会社公共サービス
代表取締役社長



ごあいさつ

学校法人 甲南学園
理事長 吉沢 英成

東播磨甲南会の皆さま、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

甲南学園もお蔭さまで、95周年目に入りました。学園100周年も視野に入ってきます。甲南第二世紀目へのとりくみ、「大局の打算を誤らぬ」(平生 夙三郎)ようにいたしたいと存じます。皆さまのご支援が、学園に活気を生み、甲南学園100年の計にむかって大き

な力になります。学園90周年のときがそうであったように、甲南大学は「人物教育率先・教育力の甲南」を掲げ、真摯な改革の努力が続いています。正志く強く 朗らかに。集中して課題にとりくむ学生の姿。就職活動での底力。仕事にとりくむひたむきさ。開学して62年過ぎても甲南の学生・卒業生のすがたはいまも輝いています。一層輝きを増すよう努めましょう。この課題には東播磨甲南会の皆さまからお知恵、ご助言を賜りたいところです。よろしくお願いいたします。



ごあいさつ

甲南大学 同窓会
会長 小林 豊

小林製薬株式会社
代表取締役社長

東播磨甲南会の皆様におかれましては、平素から大学同窓会に対しましてあたにかいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、甲南大学同窓会は、新体制に移行して1年が経過し、2年目に入りました。甲南の伝統を重んじて、守るべきところは継承しながら、常に時代にマッチした同窓会へと改革を進めて参りたいと考えております。

創立21年を迎えられた東播磨甲南会では、今回新しい役員人事を配された由伺いました。20年間会長を務められた森前会長様には心より御礼を申し上げます。また、新しい執行部は、女性会員の入

会促進を目指すなど、更なる活性化を計画されている旨伺っております。「変化が常態、不変は敗者」ということばがありますが、これはものごとを持続的に成長させるためには、変化、改革をすることがごく当たり前であって、変化は成長のためには常態化すべしという考え方です。変化には必ずリスクを伴いますし、怖さもあります。したがって人も組織もできるだけ変えたくないという気持ちが働きます。しかし、今の時代、「変わるリスク」より「変わらないリスク」の方がずっと大きいといえるのではないのでしょうか。新執行部の皆様には更なるご協力をお願い致しますとともに、東播磨甲南会における「甲南生の絆の拠点」として、東播磨甲南会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

東播磨甲南会第21回総会ご案内

- 日 時：平成25年5月26日(日)
 総 会 午後5時から
 講演会 午後5時20分から
 懇親会 午後6時から
- 場 所：加古川プラザホテル 地下1F
 総 会 } 加古川商工会議所
 講演会 } 会議室
 懇親会 加古川倶楽部
- 会 費：男性 6,000円
 女性 4,000円
 ※新入会の方は当日会費は
 免除されます。
- 服 装：カジュアル(ノーネクタイ、ジーンズもOK)

講演会 演題

『私とスポーツ』

講演者：イトウ コウジ 氏
 伊東 浩司 氏



甲南大学 准教授
 日本陸上競技連盟強化委員会
 短距離部長
 東海大学 政治経済学部卒業
 早稲田大学大学院
 スポーツ科学研究科修了
 100メートル日本記録保持者

※東播磨甲南会第21回総会の会場にて、「企業PRブース」を設置いたします。
 皆様のお申し込みをお待ちしています。詳細は別紙をご確認下さい。

東播磨甲南会・企業訪問

東播磨甲南会の会員の皆さんの企業を訪問させていただくのも第2回目となりました。

第2回は、東播磨甲南会会長として20年間支えてくださった、医療法人達磨会 東加古川病院 森 滋郎理事長を訪問させていただきました。訪問させていただきましたおり、森理事長は体調を崩され入院中であったため、ご子息の院長 森 隆志様にお話をお伺いしました。



【司会】

森理事長は、なぜ甲南を選ばれたのか
 お聞かせください。

【森院長】

学校が優秀な学生を取ろうということ
 になり、現理事長に入学の声がかかった
 と聞いています。なお、現理事長は5人
 兄弟で、理事長以外の兄弟は皆神戸第1
 中に進学しました。

【司会】

甲南学園の当時の様子や学生生活で印
 象に残っていることをお聞かせください。

【森院長】

同級生と学校にプールを作る構想を持ち、
 先輩方を回って資金を集め、校長にプー
 ルを作ることを提案したと聞いています。
 このとき、校長からプールを作ることに
 反対されたため、責任をとるのと、半ば
 面あてに腹を切ってやろうと思ったとい
 っていました。

しかし、その後校長からプールは作る
 だけで済まず、メンテナンスタンスなどの後の
 フォローが大変で今は出来ないと言われ、
 自分の考えを反省したといっていました。

【司会】

森理事長の旧制甲南理科大学進卒業後の
 経歴についてお聞かせください。

【森院長】

大阪大学医学部に進学しました。
 当初は眼科医を目指しており、眼圧計を
 自作したこともあったようです。私もそ
 の自作した眼圧計を見たことがあります。
 しかし、東加古川病院の院長になったので、

精神科医の道に変更した経緯があります。



お元氣な頃の森 名誉会長

ました。その結果、理事長は、無事に日本に帰れたといっていました。

【司会】

健康長寿の秘訣、健康維持のために心がけていることは何でしょうか。

【森院長】

皆さんもよく聞かれたと思いますが、「塩砂糖は敵だ」といって刺身も醤油を付けずに食べていました。親類から、そんなことは言っているけど実のところは家庭では醤油を使っているのではないかと聞かれたこともあります。本当に醤油は一切使っていませんでした。一方で、健康に良いといわれるサプリメント（紅茶きのこなど）はよく食べていました。また、「今が一番良いと思っ生きてること。」と常にいっております。

【司会】

印象に残っている患者さんはいらっしゃいますか。

【森院長】

昔のトイレは汲み取り式でしたが、食事の皿をトイレに持ち込み、人が近づくと糞尿を汲んで撒き散らす患者さんがいました。さすがに困り果て、職員の中から決死隊をつくり、雨カッパなどで武装して突入し、糞まみれになりながら取り押さえたことがありました。また、部屋に張ってある板壁の分厚い板を、どうやったのか分かりますが、剥がし、職員が食事を配膳しようとする部屋に入るとその板を振り回して襲いかかられ、危険な思いをしたこともありました。

【司会】

それでは、医療法人達磨会東加古川病院について伺います。

病院の設立年は昭和12年とされていますが、理事長が設立されたのでしょうか。

【森院長】

理事長は、昭和12年に復員し、昭和21年から院長を務めてきました。本病院は、理事長の父を含む5名の医師による匿名組合立としてスタートしました。初代は、その先生方の御関係の方と聞いております。

【司会】

精神科を開設された理由をお聞かせください。

【森院長】

最初は「脳病院」としてスタートし、昭和12年に「加古川脳病院」に名称を変更しました。匿名組合を作るきっかけとなったのは、戦争が始まり、この時代に精神科のニーズが高まると考えたことからです。昭和26年に「脳病院」から「精神病院」に変更しています。その後、昭和40年10月に「達磨会」として法人化しました。当時は、精神病院が少ないのに患者が多く、精神病院のニーズがありました。本病院は、県下で4番目に設立された精神病院です。

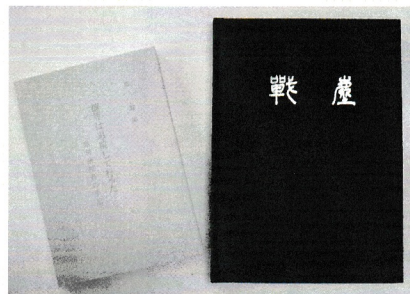
【司会】

近年の患者さんの傾向をお聞かせください。

【森院長】

近年、統合失調症の患者さんは軽症化し、また減少しています。統合失調症は、原

因が不明で、発病すると症状が長期化する傾向にあります。対応としては、対処療法により精神科症状を抑えることを第1としていますが、常に薬の服用が必要です。一方で、対人障害、躁うつ病、神経症で入院する患者さんも増えています。ただ、近年の患者さんは、薬が発達し、薬で治療が早くできるようになってきていて、入院しても短期ですんでいます。ただ、認知症の周辺症状（精神症状）をもつ患者さんが増えてきていて、入院対応した場合は結構長く入院が続く傾向があります。



『彼等は退院して行った』
左右『戦塵』 森 滋郎 著



『戦塵』 森 滋郎 著

【司会】

病院の今後の方向性（グループホーム経営を含めて）についてお聞かせください。

【森院長】

入院治療により、精神症状が落ち着いた患者さんであっても今は病院に入院していることが多くあります。この状態を社会的入院といいますが、このような患者さんを受け入れる先がグループホームになります。しかしながら、グループホームの整備が進んでおらず、社会的入院の患者さんがまだまだ多いのが日本の現状です。一方、外国では、精神科の病床数は日本と比べて少ないものの、福祉的役割をもった中間施設（グループホームなど）の整備は進んでおり、中間施設での患者さんの受け入れが行われています。病床数、中間施設の受け入れ数を合わせて全体で見ると、日本も外国も同じくらいの受け入れ数となっています。日本は中間施設を増やすというより、精神科の病床数を増やし、病院で福祉も行っているという現状を物語っています。本病院と別法人として「社会福祉法人 てらだ」を運営しています。「てらだ」は、本病院からの退院者を受け入れており、グループホームの大きなものと考えていただければ間違いがないと思います。さらに精神科の入院患者さんは、20年から30年の入院は普通で、50年を超えて入院される方もあります。このような方を受け入れるため、本病院の隣に老人保健施設「緑寿苑」を併設し、高齢者の受け入れを行っています。

精神科の患者さんの入院が長くなる傾向

向があるとはいえ、精神症状が改善した患者さんが社会復帰するための自立訓練施設も必要であると考えています。長期入院者で院内寛解をきたしてある程度自分のことができるようになった患者さんは中間施設に移ってもらうようにしています。

今の患者さんには、訓練を行うことが重要です。というのも、今の患者さんは自分のいやなことができない方が多くなっています。分け合うことができず、常に自分の方にとりこもうとする、GIVE&TAKEということに堪えられない傾向を持つ人が多いのです。この原因は、いろいろと考えられますが、今の子どもたちはとても大切に育てられて、そのために自分自身が弱くて、我慢ができない、いやなことができない、などのために自己中心的な傾向が強いように思います。昔の子どもたちは、自我の成長を促し、早く自立するように育てられていました。この理由は、昔は早く自立し家計を支えることもあったのでしょうが、そのことが子どもたちを強くし、我慢することを覚えて、社会に適応できるようになるという結果につながったのだと思います。



【司会】

医療法人達磨会東加古川病院がこれから課される役割についてお聞かせください。

【森院長】

野放図の子どもが適応障害になることが多い。子供の時からしっかりとした躾を行うことが必要です。躾というのは、小さな子どもでは最初はトイレトレーニングから始まります。このとき、躾をするほうが躾けられる方から見て、優位である必要があります。躾ができていない子どもが、親より大きくなってしまふと躾はできないし、時期がもう遅いということなんです。こういう場合、入院治療を行うことが必要になる人が出てきます。病院では、治療と併せて総合的な躾が可能となるよう生活訓練センターを平成24年度に設置しました。ここでは、自我の躾を行うことを目的としています。

一般的な病院では、医師一人に対して患者16人の割合ですが、精神科では、医師一人に対して患者48人（精神科特例）が適用されています。ところが、最近では精神科特例を見直す動きがあります。精神科特例が見直されると、現在の425床を200床位にする必要があり、そのために入院患者さんの独り立ちを進める必要があります。このことに役立つのが、訓練センターであると思っています。センターは患者さんの社会復帰を促進する原動力になります。退院された患者さんは、中間施設に受け入れて、さらなる訓練を経て、社会に自立するという流れを作ることとなります。

【司会】

加古川市で精神科の病院を継続される意義についてお聞かせください。

【森院長】

最近精神病患者さんは減少傾向にありますが、適応障害、認知症などの疾患が増加してきており、トータルでは患者さんが増えていきます。増えてきた患者さんを診るのに、これまでの収容施設というイメージから、訓練による再生、そして社会へ独り立ちできるように治療が必要であると考えています。本病院は、加古川市内では一番古い精神科病院です。しかしながら、取り組みは先進的であり、患者さんの社会復帰を目指す生活訓練の取り組みを充実、治療のノウハウを蓄積して、より進歩的な治療を実践していくことを考えています。

【司会】

本日は、大変お忙しい中、東播磨甲南会の企業訪問を受けてくださり、誠にありがとうございました。医療法人達磨会東加古川病院のますますのご発展をお祈りいたします。



近況報告



甲南大学体育会自動車部
ヘッドコーチ
前田 直
スナリ
H元年 法

最近の学生

平成元年に無事五年間の大学生活を終え、はや、25年。8年程前、先輩に誘われ今の現場のお手伝いが始まりました。ある日の出来事でした。監督が学生Aをきつく叱る場面がありました。

その後、学生Aには謹慎処分が下されました。個人的には、その処分に異議はありませんでしたが、学生達の反応がすこぶる良くないので、数名に考えを問うてみると、監督と学生達の判断が大きく食い違っていました。謹慎処分とは、クラブ活動の禁止。つまり部屋に来てはダメ！なのですが、来なければ済んでしまうのです。今やメールや携帯電話が当たり前。学生同士が自由に連絡を取り合うことができます。彼ら自身が、学生Aの行動が謹慎に値すると認識していなければ、まっ



城山電子グループ
株式会社SDモバイル
ソリューション事業部
開発グループ
井奥 貴子
H3年・経営

今日の頃

私は地元加古川市でコンピュータ関係の仕事をしており、結婚相手も地元高砂だったので2人の子供とともに4人家族で高砂市に住んでいます。まわりの方の協力のもと仕事と子育てに毎日奔走しています。この原稿を書いているときに、上の子供が小学校でインフルエンザに罹ってきて、私と下の子供、実家の方でも感染。自分の体も辛い

たく意味をなさないので。それ以降、事あるごとに学生達の意見、考えを聞いてみました。すると私が落胆するようなことは有りませんでした。個人差はあるにせよ、基本的な考え方に問題があるとはまったく思えません。問題解決だけでなく、日々の活動の細部に至るまで彼らの自主的な判断や決定に任せることで、より実効性が高くなると思います。それに対する助言や意見を投げかけることに留意するよう心がけています。

～体育会自動車部「全国学生自動車連盟総会」出席：男子個人の部 優勝～

体育会自動車部が、2012年度「全国学生自動車連盟総会」において、団体、個人男子の部ともに第1位を挙げた。全国学生自動車連盟総会では、2012年度に開催された「ドラフト」および「オープン」の大会における各チームの成績を総合して順位が決定する。個人男子の部で優勝した「東播磨甲南会」は、今年度大会に出場する甲南大学第1位の成績を収めた。東播磨甲南会からは、おめでとうございます！2013年度は全日本大会でもよい成績を残せるよう、皆さんの日々の練習を期待しています。

【12月21日 甲南大学に優勝を報告する様子】 左から「文学部3年」、右から「経済学部3年」 渡辺さん（経済学部3年）、石村学長より表彰状を授けられました。

～2013年度 在学生対象奨励金授賞式を開催します。～

2013年度に新たに奨励金を希望する在学生対象の奨励金授賞式を、2013年3月27日（木）9:30-11:00（142講義室）および3月28日（金）13:30-15:00（813講義室）に開催します。詳細については、学生部ホームページおよび学生部事務室等で1月中旬頃から案内しますので、希望者は必ず出席してください。

学生部ニューズレター No. 12 編集・発行 甲南大学学生部
Tel: 079-435-2322 E-Mail: zasshi@kai-nan-u.ac.jp
2013年1月12日発行 甲南大学学生部

し子供も熱を出しているしとても大変でした。また中学・高校のクラブの顧問の先生が退職されるということ、先輩後輩が集まって同窓会をしようということになり楽しみにしていました。ちょうどその二日前にインフルエンザに罹ってしまい出席できませんでした。25年以上会っていない方ばかりでしたので参加できないのはとても残念でした。東播磨甲南会の総会にも出来るだけ参加させていたのですが、女性一人なのは少し寂しいです。私の周りで甲南大学卒の女性は結婚して他の地域に行っていました。結婚して東播に來られた女性をご存知の方はぜひ入会を勧めてください。よろしく願います。

東播磨甲南会ゴルフコンペ開催のご報告



平成24年11月16日金曜日 小野ゴルフ倶楽部におきまして、参加者8名による第6回東播磨甲南会ゴルフコンペを開催いたしました。当日は、早朝から濃霧が発生していましたが日中の天気は快晴で、最高のゴルフ日和となりました。前日と後日を激しい雨天にはさまれながら、ラッキー晴れ男が必ずいるであろう2組でのラウンドは楽しくなごやかに終了しました。

結果の方は、優勝は常連の樋口様（S46卒）、（ダブルペリア方式）。結果発表と参加賞授与から軽食懇親会の後、お開きといたしました。懇親会では、学生時代の話や甲南卒業生の各方面での活躍などの話で盛り上がり、親睦を深めました。

来年度の次回第7回目は加古川ゴルフ倶楽部でのコンペを予定しております。11月の何かと気ぜわしい時節ではありますが、年に一度の開催を継続しています。是非とも皆様のご参加よろしく願います。

（担当・澤本）

平成24年11月16日

東播磨甲南会ゴルフコンペ収支の件

参加費	¥4,000×8名 =¥32,000	
賞品代（参加賞のみ）		¥7,560
会食代		¥21,780
コンペ案内用葉書	¥50×40枚 =¥2,000	
葉書印刷代		¥0
合 計	¥32,000	¥31,340

¥32,000-¥31,340=¥660（差額）
東播磨甲南会会計に¥660を繰り入れました。

平成24年度事業報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

- 平成24年 5月15日 機関紙「東はりま甲南会報」第15号発行
- 平成24年 6月16日 東播磨甲南会総会
- 平成24年 11月16日 ゴルフ同好会親睦コンペ開催
- 平成24年 11月24日 三木甲南会総会出席
- 平成24年 12月20日 大阪甲南会例会出席

平成24年度会計報告

(平成24年4月1日～
平成25年3月31日)

歳入	入会金	30,000	歳出	総会費用	143,418
	臨時会費	111,000		機関紙発行・送付費用	141,421
	支部援助金	160,819		他甲南会参加費	21,640
	預金利子	189		慶弔費	12,654
	前年からの繰越金	790,953		次年度への繰越金	774,488
	雑収入	660		合 計	1,093,621
	合 計	1,093,621			

※上記の通り、収支は正確であると認めます。監査人 西尾 淳

平成25年度事業計画(案)

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

- 平成25年 4月20日 機関紙「東はりま甲南会報」第16号発行
- 平成25年 5月26日 総会
- 随 時 ・友好支部総会へ表敬訪問 ・幹事会、役員会
・ゴルフ同好会親睦コンペ開催

平成25年度予算(案)

(平成25年4月1日～
平成26年3月31日)

歳入	入会金	20,000	歳出	総会費用	150,000
	臨時会費	150,000		機関紙発行、送付費用	150,000
	支部援助金	160,000		他甲南会参加費	20,000
	預金利子	200		事業費・慶弔費	30,000
	前年からの繰越金	774,488		次年度への繰越金	754,688
	合 計	1,104,688		合 計	1,104,688

東播磨甲南会 役員組織 (平成25～27年度)

名誉会長 森 滋郎 (S10 旧理)※

会 長 三宅 隆宏 (S41経営)※

顧問 渡邊 東 (S40経済)※

幹事長 栗山 隆博 (S62文)※

副幹事長 大庫 良一 (S54経済)〔筆頭〕

中尾 知也 (S50法)〔総務担当〕

大庫 俊介 (S46文)〔地区担当〕

松本 浩一 (S49文)〔広報担当〕

会 計 澤本 武司 (H6理)

監 事 西尾 淳 (S39経営)

中川 智章 (S39法)

同窓会 富居 雅人 (S62文)

本部幹事

※印は新任

〔総務委員会〕

委員長 岩崎 泰央 (S62法)

副委員長 籠谷 紘義 (S40経営)

大西 信良 (S40経営)

藤原 武彦 (S60経営)

〔地区委員会〕

委員長 井奥 貴子 (H3経営)※

副委員長 北条 雅紀 (S48経営)

丹後 昌博 (S54法)

原戸 種弘 (S50経営)

澤本 武司 (H6理)

〔広報委員会〕

委員長 新濱 義孝 (S62理)

副委員長 岸本 明広 (S58法)

佐藤 孝洋 (H4法)

前田 直 (H1法)

渋谷 哲志 (H1法)

入会のご案内

■目 的…甲南大学同窓会の東播磨支部として、本部及び大学との連絡を密にするとともに会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与する事を目的とする。

■入会資格…甲南学園卒業生で加古川市、高砂市、加古郡及びその近郊に在住、勤務。

■入会金…終身会費1万円(初回のみ)

■入会方法…総会時受付で申し出ていただくか、直接事務局へ。

■その他のご負担…総会・行事等毎に参加者からそのつど臨時会費(実費)を頂きます。

■事務局

〒675-0017

加古川市野口町良野365-11

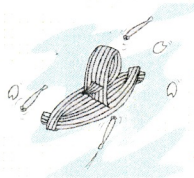
行政書士澤本事務所 澤本武司 気付

東播磨甲南会

TEL 079-421-1747

FAX 079-439-2842

E-mail sawamoto@gyosei.or.jp



桜の開花を聞くと会報紙の作成の時期となる。編集を担当して2回目。編集に多くの会員の協力を得ていることに感謝。
今回は紙面を増やし6頁となった。会長の交代に合わせ役員も若い方が就任される。今後の東播磨甲南会の活性化、さらなる飛躍が期待される。そのためにも編集を担う者として紙面の充実に取り組んでいきたいと思う。
(Y・S)

編集後記